

## 公開講座 開催報告

新潟県立大学では、2009年の開学以来、地域の皆様を対象にした有意義な公開講座を開催してきました。令和2年度は、ポスト・コロナ時代を見据えた新潟市東区の産業観光をテーマとする公開講座を開催しました。

# 新潟市東区産業観光の 広域展開に向けて

～ポスト・コロナ時代のグローバル戦略を探る～



日時 2021年 1月10日(日)  
14:00～17:00

会場 新潟県立大学  
大学院棟4101大講義室  
オンライン配信 (Zoomウェビナー)

### パネリスト(発表順)

和田 貴子さん(燕三条地場産業振興センター プライドプロジェクト担当)  
尾畑 留美子さん(佐渡市 尾畑酒造(株)専務取締役)  
石井 哲也さん(新潟市東区長)  
清水 伸さん(㈱博進堂代表取締役社長)  
坂井 良宏=スーパー・ササダンゴ・マシンさん  
(坂井精機(株)代表取締役)  
高橋 彰さん(新潟交通(株)旅行企画課)

### 公開講座プログラム

13:30 受付開始  
14:00 開会・開会あいさつ  
14:05～15:30 パネリスト発表  
15:30～15:40 休憩  
15:40～16:40 ディスカッション  
16:40～16:55 質疑応答  
16:55 閉会あいさつ  
17:00 閉会

### コーディネーター

山中 知彦 (新潟県立大学国際経済学部教授)



和田 貴子さん

燕三条地場産業振興センター  
プライドプロジェクト担当

燕三条は、燕市と三条市の二つの市からなります。古くからのづくりのまちとして知られ、包丁、利器工器具、作業工具、金属洋食器、金属ハウスウェアなど、金属加工を中心とした地域です。

燕三条地場産業振興センターは、地域の優れた製品を展示販売する事業、企業支援をする事業、燕三条を国内外に発信する事業など、産業と観光の拠点となっています。

「燕三条ブランド」を発信するためのアクションプランとして、『燕三条プライドプロジェクト』があります。複数のプロジェクトから構成され、燕三条の魅力を表現するライフスタイルを創造し発信しています。アウトドアメーカーの(株)スノーピーク山井会長と鋳造銅器の老舗(株)玉川堂玉川社長が将来的なビジョンやコンセプトを提案し、約70名の地域の方が企画運営を行っています。

例えば、農園主自らが企画する体験型イベント「燕三条『畑の朝カフェ』」では、食材だけではなく、そこで使用する収穫鉋やカトラリー、テーブル、椅子、タープなどをすべて燕三条の高品質な道具で設えることで、燕三条を体感していただくことができます。

また燕三条では、工場を開放して製造現場をお客様に体感していただく工場見学イベント「燕三条 工場の祭典」を2013年から続けてきました。地図を片手に各自が思い思いに興味のある工場を巡り、職人が魅力を最大限発揮できる工場で誇りをもって取り組む姿を見ていただくという取り組みです。7回目の開催となる2019年の来場者数は56,000人で、海外から来られる方も増えています。目標は、燕三条を「ものづくりの聖地」にすることです。燕三条の魅力を海外に発信するために専門部署を立ち上げて4年目になります。これからも、日本、世界にむけて情報発信していきたいと考えています。



尾畑 留美子さん

佐渡市 尾畑酒造(株)専務取締役

1995年、酒蔵を継ぐために(尾畑酒造専務、五代目蔵元)、佐渡島に戻りました。新潟県はたくさんのお酒蔵があり、佐渡島にも5つの蔵元があります。佐渡は現在450羽を超える朱鷺が舞い、自然環境がよい場所です。朱鷺の放鳥が開始されて以降、佐渡市は、「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を発足し、生き物をはぐくむ農法の拡大に取り組んでいます。私たちの契約農家さんの相田さんも認証を持ち、牡蠣殻農法を行っていらっしゃいます。山からきた水、かきの殻のミネラル分を活用して高品質な米ができます。私たちはこのお米からできたお酒を牡蠣料理に添えることで、お酒造りから地域の循環型のシステムを紹介できると考えています。

2011年、佐渡は農業の多様性を認められ世界農業遺産に認定されました。多様性を感じる風景の一つが棚田です。美しい光景として注目されつつありますが、後継者不足などから維持が難しい状態です。私たちはその棚田のお米でお酒を造ることで棚田の農家の方のサポート、持続可能な地域づくりにお役に立ちたいと考えました。『龍の恵み』というお酒をつくり、お酒と共に棚田の物語を広げているところです。

この『龍の恵み』を仕込んだ場所は、廃校を酒蔵として再生させた学校蔵というところ。学校蔵では太陽光発電で、再生エネルギーを導入しています。今年は新型コロナウイルス感染症で残念ながら中止となりましたが、毎年一度、6月に開催している「学校蔵の特別授業」では、外部から有識者を先生としてお招きし、島内外、いろんな世代、いろんな立場の人が集まって授業スタイルで学ぶワークショップを行っています。

また酒造りを学びたい人を約一週間受け入れる少人数の体験プログラムも行っていきます。一週間という長い期間、学校蔵に通ってもらうことによって酒造りに触れてもらいます。参加した初日から役割があるおかげで、初対面の方も非常に仲が良くなります。佐渡の水、米、歴史といった佐渡を学ぶ機会にもなります。海外からの参加者も多く、フランスから来られた方は帰国してわずか1か月後に佐渡を再来されました。香港から来られた方は体験酒造をきっかけに佐渡に移住されました。

昨年まで学校蔵ではリキユール免許でお酒を製造しておりましたが、2020年、内閣府の「日本酒特区」第一号として認定適用され、日本酒での出荷が叶うこととなりました。また、Japan Times Satoyama大賞をいただきました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたあとになると思います。他の佐渡観光と連携した半日プログラムもつくっていきたく考えています。

お酒造りは佐渡の資源の循環につながれると考えます。サステイナブル、持続可能な地域の成長につながっていきたく考えています。



## 石井 哲也さん

新潟市東区長

新潟市東区は空港と港を有する空と海の玄関口です。人口約14万人、産業を支える火力発電所、製紙工場などの大きな煙突があるほか、国産木材を一時保管する貯木場が整備された通船川などがあります。観光の面からは、東区にある新潟空港の利用者増加があげられます。平成30年度（2018年度）の利用客数は11年ぶりに110万人を超えました。新型コロナウイルス感染症で乗客は減少していますが空港利用者をどう地域に取り込んでいくかが課題です。また昨年度のクルーズ船の受け入れは14回でした。港でのにぎわいを東区に波及させていきたいと考えています。

これまでの東区役所の取り組みです。東区の産業のイメージを向上させたもの一つとして、東区工場夜景バスツアーがあります。新潟県立大学学生が通船川の活用策を授業の一環で考えられ、現在東区役所が主催・企画しています。定員に対して申し込み倍率が数倍になる人気のツアーとなっています。

過去3年間の参加者は男女比4:6で、50~60代、開催地である東区の方が多くなっています。参加者からは工場夜景があることを初めて知った、工場は想像以上に綺麗で迫力があつたと感想をいただいています。ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症で積極的なPRができませんでしたが、今後も市外、県外へのアピールをしていきたいと考えています。そのほか東区産業・観光フォトコンテストを産業のまち、夜景、四季をテーマに開催しました。

東区の20代前半の県外転出理由としては81%以上が職業に関連していました。新潟県立大学学生も就職を機に転出する傾向があり、就職先として東区の魅力ある企業情報を発信していく必要があります。

私たちの取り組みは、皆様からのサポートがあっけてきています。今後も皆様のお知恵やお力をお借りして、東区の魅力をより広くPRし、さらに発展させていきたいと考えています。



## 坂井 良宏=スーパー・ササダンゴ・マシンさん

坂井精機㈱  
代表取締役

東京のDDTプロレスリングと松竹芸能に所属しながら、普段は新潟市東区の金型工場・坂井精機株式会社に三代目として仕事をしています。得意技は垂直落下式リマン・ショックというプロレス技と、パワーポイントを使ったプレゼンテーションです。

実家の坂井精機株式会社では、主に「精密プラスチック金型」と「粉末冶金（やきん）金型」を取り扱っています。現在は、自動車用部品、デジタルカメラやパソコン等の家電製品部品、計測器部品、医療用部品など、様々な分野の部品を生み出す金型を生産しています。しかし、自社製品ではないので、どのような製品の部品をつくらせるかなどPRできないのが悩みです。

2020年6月に、会社をつぐことになりました。やっているプロレスと両立できるか、今の受注を継続できるか、40人の従業員とその家族の生活を守るのか、いろいろ不安のなか、コロナショックがすすみ、売り上げが前年の3割減りました。

そんな中、新潟県立大学の公開講座の話を区役所からいただき、さらに区長自ら、『ササダンゴさんもおバネリストとして、東区が産業観光を今後どう情報発信していくか。一緒に考えませんか。』と声をかけていただき、断れなくなりました。

新型コロナウイルス感染症の流行の中で、東京と新潟を往復することも少なくなり、会社においても残念ながら金型の仕事はない。スポーツジムもいけないので、東区中を歩き回ってみることにしました。港、川、あてもなく端から端まで歩き続けました。取引先の町工場はこんなところにあるのか、いつも見ている煙突の根元はこうなっているのか。物や人の流れが、なんとなく見えていく気がして、東区の地域を知るいい機会になりました。その時歩きながら聞いていたのがスマートフォンのラジオ、それも地元のラジオやコミュニティFMでした。

サード・プレイスとは、コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された、心地のよい第3の居場所を指します。ここ東区は、居心地は悪くないけれど、そんな居酒屋、カフェ、近所の図書館のような、居心地のよい場所がもっとあってもいいなと思いました。

そんな中、ラジオもそのような場所のなか、地元で共有できるものなのかな。自宅でもSNSでもなく、電波もそのようなコミュニティの場所なのかなという発想ができました。

この地元である新潟市東区にFM局を作りたいです。物、人とストーリーを伝える場所にならないか、人と人をつなぐ役割、情報発信の場にならないか、というのがこれからやっていきたいことです。引き続き応援よろしくお願いします！

## 清水 伸さん

㈱博進堂  
代表取締役社長

博進堂は大正10年（1921年）創業の東区にある印刷会社で、今年で100周年を迎えます。私どもの工場に掲げています「ART FACTORY」は、私たちがつくるものは未来へつながる美しい作品であることを宣言しています。工場そのものをミュージアムにしようということであちこちに現代美術の作品があります。

私の仕事は企業理念の実現です。博進堂では「社志」と「社訓」として、それぞれ3つの企業理念を定めています。一、新しい価値を共に創造します。一、仕事を通じて人間の成長を支援します。一、未来へつながる美しい作品づくりを追求します。紙文化というのは非常に貴重な文化、作品として残すその領域でこそ、その価値を發揮し、生き残るのではないかと。近江商人の商人道「三方良し」のように自分たちだけがよくなるのではなく、顧客も地域も良くなっていくことが大事であり、顧客の皆さんや社会から支持されて始めて私たち企業も生き残っていくのではないのでしょうか。

仕事の内容としては北海道から九州まで全国の学校の卒業アルバムを手掛けています。社員の4割が女性社員です。女性社員が4年前に新潟市からご支援いただいで、男女共同参画、女性社員の活性化ということで委員会をつくりました。そこからオープンアートファクトリーが始まりました。燕三条のKoubaの祭典に触発され、うちの会社の魅力はものづくりの現場ではないか、地域に開放して観ていただくというアイデアでした。いい発案でした。全社員を巻き込んで3年前にもものづくりの現場見学（デザイン制作～印刷製本加工）だけでなく、独自の印刷技術紹介やアルバムづくりの教室、写真撮影の教室、飲食を楽しむCAFÉなど色々考えて実践してくれました。私たちの木工団地にある、仏壇屋さんもこの中にお店を構え参加してくれました。弊社のデザイナーが手掛けている巻町にある「鯛車」など郷土が誇る文化も発信し紹介しました。

東区にも関東圏の修学旅行を誘致し、産業教育観光ができないかと考えています。東区の街歩き、工場見学ツアー、町の歴史を学ぶなど、地域の様々な記録を残し歴史や産業を学ぶ観光があっても良いと思います。修学旅行だけでなく、地元の子供たちにも、ふるさと新潟の産業や歴史を幼少の頃から学ぶことで、郷土愛を育み、将来、新潟へ戻り、働こうという動機付けにつながる機会になればと考えます。

新潟市と燕三条、佐渡をつなぐことで産業教育観光の国際化も実現できるのではと考えます。このセミナーが皆さんと共に考え、創っていく場へと、つながることを願っています。

## 高橋 彰さん

新潟交通㈱旅行企画課



普段、私たちのバスツアー、旅行サイト『新潟交通の旅くれよん』は、国内旅行を主に扱っています。昨年3月～6月新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言から、旅行はすべて中止になり、7月に再開いたしました。現在は、自宅からおよそ1時間圏内の地元や近隣の短距離観光であるマイクロツーリズムが人気です。個人型のプランは佐渡、岩室温泉、瀬波温泉などが人気です。

新潟東区工場夜景ツアーも東区さんと共同で行っています。14倍の申し込みがあることもあり、人気は幻想的な風景や産業観光、東区のグルメと

して航空自衛隊新潟分屯基地 新空（にいら）からあげも皆さまに好評でした。

今回のお話から、佐渡、燕三条、新潟2泊3日の産業観光ツアーも着地型商品として販売できるかなと考えています。東区の消防防災航空隊を見学、佐渡にわたり、佐渡に泊まり産業遺産や酒造をみて、新潟東区に戻ります。産業観光、夜は工場夜景をみて、燕三条に泊まります。翌日地場産業見学や、地場のものに触れるプランです。

産業観光の場合は民間の工場などが対象になるのに対し、最近ではインフラツーリズムも人気です。ダム・橋梁・道路など土木系の公共財が主体となります。

国道289号八十里越工事現場、南会津のあふれる自然、河井継之助の足跡などをめぐるツアーを国土交通省の監修のなかでできるのかなと考えています。

新潟の産業の魅力再発見、感染症リスク低減、地域の企業のアピール、グルメ企画としてつなげられないかと考えています。

## 総括 | コーディネーター 山中 知彦

6名のパネリストの発表を受けた後のディスカッションでは、新潟市東区と燕三条および佐渡の広域連携によって、当該地域の産業観光の活性化がもたらされることが確認されました。観光客にとっては選択肢の豊富化・地域の物語をめぐり魅力の増大・他が、地域産業にとっては相互交流・啓発・他が、そして行政にとっては地域活性化・税収増・他が挙げられます。

そして、各パネリストのコロナ禍での試行錯誤の報告や会場との質疑応答を通して、今後の産業観光の進むべき途として、非日常（イベント重視）から日常的（ノーマルな）活動へ、さらに単なる観光から「観光+教育+人材育成+市民の誇り」という複合的な目標へ、といった方向性が浮かび上がってきました。

最後に、参加者全員が新潟市東区を軸とする産業観光の広域連携に向け、産官学連携で今後の具体的なプログラムの展開を目指すことを確認し、公開講座を終了しました。